

# リレーコントロールバルブ

中継用自動制御バルブ

Y R - 6 5

## 取り扱い説明書

### 項目

1. 概要
2. 仕様
3. 外形図
4. 機能及び効果
5. 使用方法
6. 注意事項

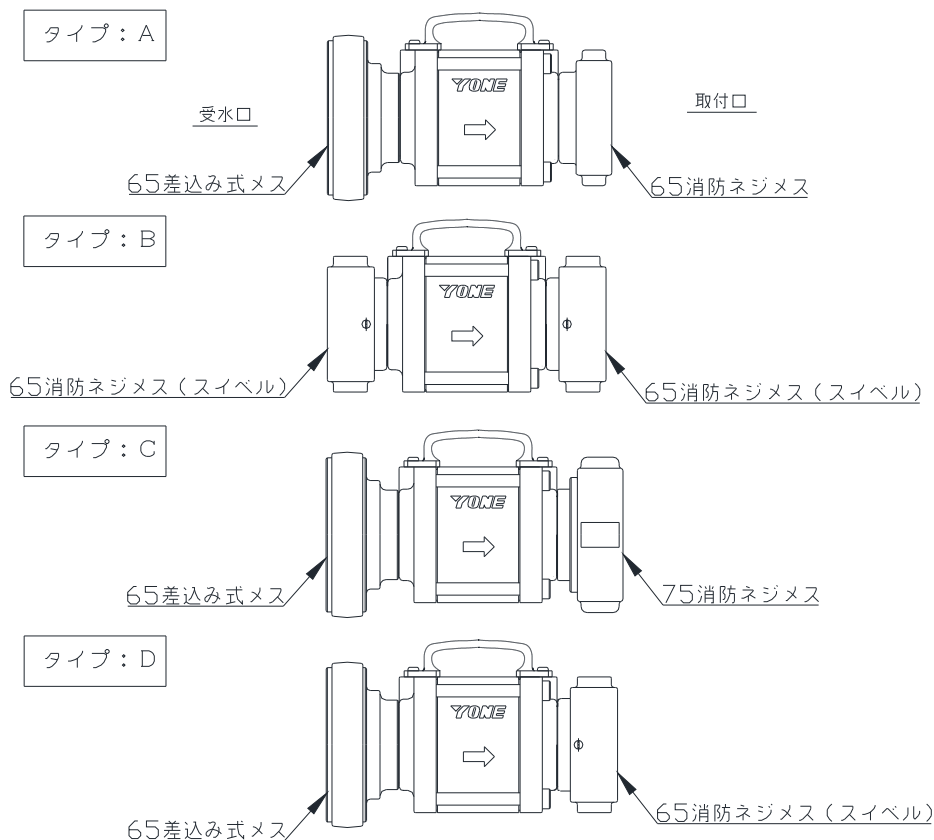
## 1. 概要

リレーコントロールバルブは、元ポンプ車或いは消火栓（有圧水）から先ポンプ車或いは可搬式ポンプへ中継送水を行うとき、ポンプのサクション側（中継口、吸水口）に取り付けて、送られてきた圧力を自動的に0.15 MPa以下の圧力に下げると同時に先ポンプの放水量に応じた流量を供給する中継用自動制御バルブです。圧力及び流量を制御することにより中継送水による消火活動が迅速且つ安全に行えます。

## 2. 特長

- 1) 名称：リレーコントロールバルブ
- 2) 型式：YR-65
- 3) 制御圧力：0.15 MPa以下
- 4) 中継圧力：最大1MPa（入口圧にて）
- 5) 制御流量範囲：0～1500L/min.
- 6) 質量：約3.8 kg
- 7) 接続口：取付口：65 消防ネジメス、75 消防ネジメス  
受水口：65 差込みメス金具、65 消防ネジメス  
\* 以下参照のこと

## 3. 外形図



## 4. 機能及び効果

先ポンプの圧力設定を一度行えば中継圧力が0.1～1.0 MPaと変化しても、制御バルブが必要放水量に応じて自動的に作動して常時0.15 MPa以下に制御し、一定の放水圧力を保ちます。元ポンプの圧力や水量の変化に、制御バルブが即応し安定させますので、先ポンプがそれらの影響を受けず、安全且つ適切に制御出来ます。

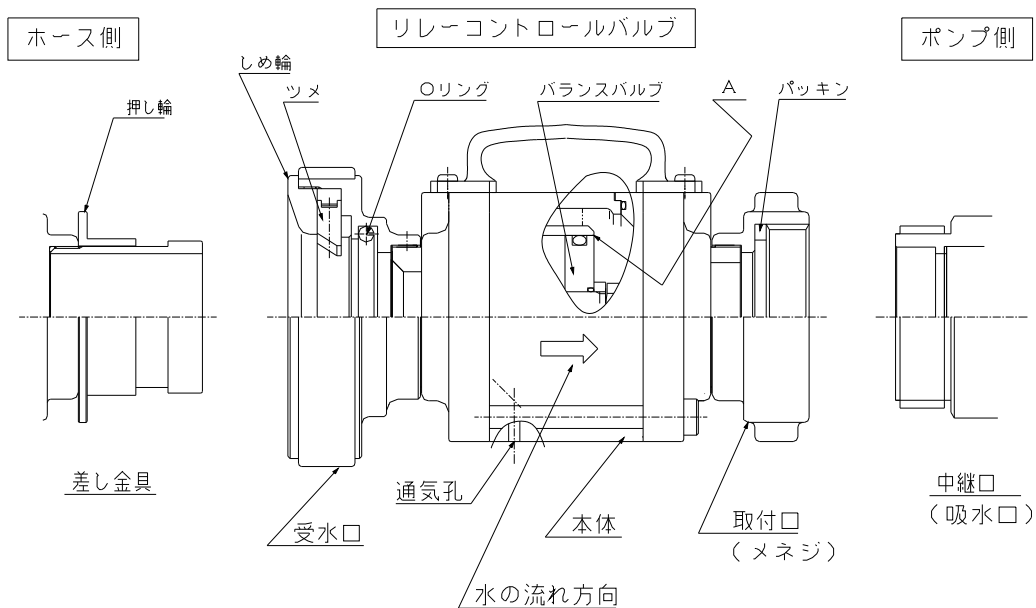
- 1) 一旦、スロットルをセットすれば、供給圧力が変化しても先ポンプは殆ど変化しませんので、達成計を見ながらの面倒な操作が一切不要です。又、一定の圧力を保ちますので危険防止の役目を果たします。

- 2) 中継送水中、圧力を調整する際に、伝令等による連絡を必要としません。
- 3) 放水中に筒先や放口弁による遮断に対しても、制御バルブの作用によりポンプやホースを守ります。
- 4) 中継圧力及びバルブ内圧力でバランスを取る為、作動不良等の故障は皆無です。
- 5) 中継用の簡易水槽は必要ありません。又、バルブから排水を放出しませんので、水の無駄を解消し、ポンプの周りが水浸しになることもありません。

## 5. 使用方法

- 1) 水の流れ方向に十分ご注意の上、取り付けて下さい。(特に**タイプ：B**に関して)
- 2) ポンプの中継口(吸水口)にリレーコントロールバルブの取付口をねじ込み、パッキンに当たるまで確実に締めて下さい。
- 3) リレーコントロールバルブの受水口にホースの差し金具を押し込み、完全に結合したか(ホースが抜けにくいこと)をご確認下さい。
- 4) ポンプの放水弁を開けて元ポンプ或いは消火栓からの送水を待ち、送水されたらエンジンを始動してスロットルを調整して下さい。(可搬ポンプの場合)
- 5) 放水作業後、リレーコントロールバルブを取外す際は、必ずホース内の圧力を抜いてから行って下さい。
- 6) 使用後は、本体内部と通気孔内の水を必ず抜いて下さい。格納の際は、ハンドルを上に通気孔が下になるように収納して下さい。(寒冷地の場合)

## 6. 注意事項



- ◎ 吸管による吸水時には使用しないで下さい。
- ◎ ポンプ側中継口に取付口(メネジ)のパッキンがしっかり当たるまで確実に締めて下さい。
- ◎ ホース側差し金具は使用中には押し輪に絶対手を触れないで下さい。
- ◎ 受水口に動きの悪いツメがあるときや、締め輪と受水口に緩みのあるもの等、差し金具との結合が不具合のものは使用しないで下さい。
- ◎ 本体に緩みのあるものは使用しないで下さい。
- ◎ パッキン、Oリングが取り付けられているか、劣化していないか点検して下さい。劣化しているものを使用しますと漏水の原因になります。
- ◎ 作動不良の場合はA部にメンテナンスオイルを注油し、バランスバルブを数回作動させてからご使用下さい。(尚、飲料水として使用する場合は動植物油をご使用下さい。)
- ◎ 使用後は清水で洗浄し、付着した海水、土砂等を洗い流して下さい。
- ◎ 凍結防止の為、使用後は本体内部と通気孔内の水は必ず除去して下さい。
- ◎ 投げたり落としたりしないで下さい。故障の原因となります。

\* 万一、不適切なご使用による事故等が発生しましても責任を負いかねます。